

令和2年度

西小だより

NO.7

瑞穂市立西小学校

6年2組が、最高学年にふさわしい授業を公開しました

本校は、今年度より研究主題を「確かな学力を身につけ、主体的に学ぶ子の育成」サブテーマを、～国語科・算数科における授業実践を通して～と設定し、国語科と算数科に重点を置きながら、研究を進めています。その一環として、9月3日（木）5時間目に6年2組が算数科の授業を公開しました。どの子ども、課題をしっかりとつかみ、式を使ったり面積図を使ったりして、熱心に取り組むことができました。分数×分数の計算を、どのように計算したらよいかを自信をもって発表する姿勢も素晴らしかったです。自分の意見を発表する時に、前時で学んだことをつなげて考えたり、単位分数という言葉を使って説明したりする等、学んだことを自分の言葉で表現できた点もよかったです。班交流も、短い時間の中で距離をとりながら、行っていました。与えられた環境の中で、工夫しながら学習に臨んでおり、最高学年としての模範となる姿でした。これからも、西小学校のリーダーとしての活躍を期待しています。



ゲーム機で遊ぶときのルールづくりをお願いします

「子どもにせがまれ、買い与えた『ゲーム機』。いつの間にかゲームをする時間が延長に及ぶ延長…夜中に隠れてやっている。ゲーム機を取り上げて、探し出してしまう…」なんてことはありませんか？ゲームに熱中するあまり、昼夜逆転したり、学校に行けなくなったり、食事を取らなくなったりと、ゲームが子どもたちの生活に深刻な影響を及ぼすこともあり、とても心配をしています。ゲームをすでに持っている家庭も、これから与えようとしている家庭も、ルールをしっかりと決めて与えることが大切です。しかし、そのルールが「ゲームは1日○時間、ゲームの後は○時間勉強」など、親が一方向的に決めたルールになっていませんか？ゲームで遊んでいるのは、子どもです。子どもの意向を無視してルールを決めても守れるとは限りません。

ルールづくりの基本は、親子で話し合い、お互い納得することが重要です。勉強とゲーム、先にどちらをやった方がうまくいかなど、子どもと話し合っで決めることで、子どもの中にルールを守ろうという自覚が芽生えます。あるいは、ルールを子ども自身が自分で書き出して、リビングなどに貼り、可視化する方法もあります。但し、親に内緒で課金・アイテムのやり取りや、知らない人とつながること等、危険なことやお金に関わることは、保護者が理由をしっかりと説明しながらルールとして位置付ける必要があります。

一度、与えたゲームをやめさせるのは至難の業です。だからこそ、最初に与えるときに子どもとルールづくりを話し合っで決めることが大切です。ゲーム機を与えたのは親です。子どもも親も納得のルールづくりを、ぜひお願いします。

※「青少年インターネット環境整備法」で18歳未満の子がインターネットを使う時にはフィルタリングが義務付けられています。（パソコンにも、ケータイにも、ゲーム機にも）